

(107)

氏名(生年月日)	ミヤ シタ ミナ ナ
本 籍	
学 位 の 種 類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1635号
学位授与の日付	平成8年3月15日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	胃癌の組織動態に関する臨床病理学的研究—特に肉眼・組織像のあり方の解析を通して—
論文審査委員	(主査) 教授 浜野 恭一 (副査) 教授 小林 槇雄, 伊藤 達雄

## 主 論 文 の 要 旨

## 〔目的〕

胃癌の肉眼・組織レベルでの形態像を面積と深部浸潤より観察し、胃癌の生物学的動態を知り従来の組織分類法を再検討、実践的な新 index を設定する。

## 〔対象および方法〕

1974～1994年間の東京女子医科大学第二外科学教室における胃癌手術症例767例を対象とした。腫瘍面積、深部浸潤厚、front 性状(linear, lobular, diffuse)の三パラメーターと、通常の胃癌取り扱い規約の不足分を補うため実際の腫瘍組織の形状観察からD・T・A(Duct, Tubulo, Acinar)-index: 上皮面に対し、管内腔面へ発育する(Duct: exophytic)か、間質側へ陥入・枝伸長性(Tubulo: enophytic elongation)か、腺葉増殖性(Acinar: hypersegregation)かを0～3の四レベルで表記する新 index を設定し腫瘍形態、表現を検討した。更に増殖特性を正規化するためPP (penetrating power) index: 癌細胞の浸潤力の指標として絶対深度(D)を癌面積(W)で除した値で( $PP=D/W$ )を設定し、カプランマイヤー法による生存分析で予後を検討した。

## 〔結果〕

1. 腫瘍面積、深部浸潤厚、front 性状と壁外進展の重要な指標となるリンパ節転移との相関分析では、深

部浸潤厚が0.4の相関係数で最も再発に有意に相関し、ついでfront 性状、腫瘍面積であった。

2. 予後は主に深部浸潤厚、front 性状によって規定され、front 性状のdiffuse型では他型の5倍以上の死亡例で予後不良性を示した。

3. D・T・A (Duct, Tubulo, Acinar) 特性は癌細胞が接着している上皮面で増殖、組織化し分化する際の基本単位で、各特性の増殖失調がマクロ形態に反映される。これを数値化表記したことで、従来の腫瘍形態の表現を補って分化態度をわかりやすくなった。

4. PP (penetrating power) により増殖特性を数値化。個体差はあるが、腫瘍の深層浸潤力の強さと予後不良性の指標となった。

## 〔考察並びに結論〕

胃癌組織の多様性はD・T・A特性を数値化することで従来の形態表現を補い、より具体的にその腫瘍特性が表現され、その拡がりは量的には面積(W)と深さ(D)、質的にはfront 性状: linear, lobular, diffuseの三側面で捉えられた。PP-indexは個体差が大きいですが、増殖特性を数値化することで腫瘍の予後不良性の指標となった。予後には深層浸潤厚、front 性状がよい感度を示した。

## 論文審査の要旨

胃癌取り扱い規約による胃癌の表現の不足を補う目的で、本研究では胃癌の腫瘍面積、深部浸潤厚、front 性状 (linear, lobular, diffuse) の3パラメーターと、実際の腫瘍組織の形状観察から D・T・A (Duct, Tubulo, Acinar)-index : 上皮面に対し、管内腔面へ発育する (Duct : exophytic) か、間質側へ陥入・枝伸長性 (Tubulo : enophytic elongation) か、腺葉増殖性 (Acinar : hyper segregation) かを表現する新 index を設定し、腫瘍形態、表現を検討した。更に増殖特性を正規化するため PP (penetrating power)-index : 癌細胞の浸潤力の指標として絶対深度 (D) を癌面積 (W) で除した値で ( $PP=D/W$ ) を設定し、胃癌症例に検討を行ったものである。

その結果、従来の形態表現を補い、より具体的に腫瘍特性を表現、拡がりを面積・深さ・front 性状の三側面で捉え、PP-index で増殖特性を数値化することで腫瘍の予後不良性の指標となり、予後には深層浸潤厚、front 性状がよい感度を示すことをわかり、学術上価値ある論文である。

### 主論文公表誌

胃癌の組織動態に関する臨床病理学的研究—特に肉眼・組織像のあり方の解析を通して—

東京女子医科大学雑誌 第65巻 第11号  
997-1009頁 (平成7年11月15日発行) 宮下美奈

### 副論文公表誌

- 1) 胃癌患者における Pyrimidine Nucleoside phosphorylase (PyNPase) 活性値の検討—特に術前 Immunosuppressive Acidic Protein (IAP) 値との関連について—。癌と化療 22(4) : 509-514 (1995) 桐田孝史, 浜野恭一, 馬淵原吾, 瀬下明良, 川瀬敦之, 宮下美奈, 稲田直行
- 2) 消化器領域における深在性真菌症に対する fluconazole の有用性。Chemotherapy 42(8) :

968-975 (1994) 桐田孝史, 稲田直行, 宮下美奈, 吉野浩之, 松本匡浩, 川瀬敦之, 米山公造, 瀬下明良, 馬淵原吾, 浜野恭一

- 3) 乳房温存療法の臨床病理学的検討—残存乳房内再発を中心として—。東女医大誌 65(臨増) : 22-27 (1995) 加藤孝男, 木村恒人, 宮川隆平, 田中信一, 宮下美奈, 中西明子, 村木 博, 神尾孝子, 藤井昭芳, 山本和子, 浜野恭一, 藤林真理子, 河上牧夫, 相羽元彦
- 4) 胃癌切除断端陽性例の検討。東女医大誌 65(臨増) : 28-32 (1995) 瀬下明良, 浜野恭一, 亀岡信悟, 城谷典保, 三橋 牧, 川瀬敦之, 宮下美奈, 田中信一, 金木昌弘, 木山 智, 永田 仁, 呉 兆礼, 八木美徳